

国内初、圧縮破碎方式による太陽光パネルカバーガラスの水平リサイクルを開始

セントラル硝子プロダクツ株式会社（本社：三重県松阪市、代表取締役社長：川瀬将昭）は、株式会社ウム・ヴェルト・ジャパン（本社：埼玉県大里郡寄居町、代表取締役社長：小柳巧美）において、圧縮破碎方式¹で分離・回収された使用済み太陽光パネルのカバーガラス約 2 トンを原料の一部に使用した網入り磨き板ガラスの試験生産に成功し、2026 年 2 月より継続的な水平リサイクル²を開始しました。

これまで、太陽光パネルのカバーガラスを板ガラスとして再資源化するリサイクルでは、熱処理方式やホットナイフ方式による分離が一般的でした。圧縮破碎方式を用いた水平リサイクルは国内で初めての取り組みとなります。

当社は 2026 年度に数十トン規模のリサイクルを見込んでおり、今後もカバーガラスの回収拠点を拡大し、さらなるリサイクル促進を図ってまいります。

日本国内では、耐用年数を迎えた太陽光パネルの廃棄量が 2030 年以降毎年数十万トンに達すると推計されており、その処理には大きな環境負荷が懸念されています。太陽光パネルの約 6 割を占めるカバーガラスを継続的にリサイクルすることで、廃棄物の削減に貢献します。また、リサイクルにより、板ガラスの製造に必要な珪砂・石灰石などの天然資源の採掘量およびガラス溶解時のエネルギーを低減でき、CO₂排出量の削減にもつながります。

当社は、板ガラスの水平リサイクルを通じて循環型社会の実現に貢献し、サステナブルな社会の構築をめざしてまいります。

¹ロール破碎機により圧縮を加えて太陽光パネルを分離する技術

²使用済み製品を原料として、同種製品を新たに製造するリサイクル方法



使用済み太陽光パネルから
カバーガラスを分離・回収



板ガラス原料として再利用

* 本件に関するお問い合わせ先
セントラル硝子プロダクツ株式会社
イノベーション推進室

TEL:0598-53-3005

<https://www.cgprd.co.jp/contact/>